

水害（豪雨）に見舞われた施設の経験と対策の変化

社会医療法人明和会 中通総合病院 放射線課 ○池田 英樹(Ikeda Hideki)

【はじめに】

中通総合病院は秋田市中心部に位置し、病床数 450床、診療放射線技師数 23名の施設である。

梅雨前線が東北北部に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、令和5年7月14日から16日にかけて、秋田県内は広い範囲で大雨となり、白神山地や秋田市、五城目町、上小阿仁村の3市町村にまたがる大平山付近を中心に、非常に激しい雨となった。総降水量は、多いところで400ミリを超え、記録的な大雨となり、秋田市では72時間降水量が観測史上1位となった。

秋田市中心部では内水氾濫が発生し、住宅の全壊が11棟、床上浸水が599棟となり、当院でも浸水の被害を受けた (Fig.1)。

今回の水害を通し、著者が経験した内容とその後の対応について報告する。



Fig.1

【被災当日 7月15日】

病院付近の地下道が浸水している状況を、自宅のテレビで認識した筆者は、午後2時と午後5時に職場へ連絡した。勤務当番者は、病院の状況に変化は無いと報告している。この時、管理部からも連絡網等での連絡は無かった。

午後7時ごろ、筆者は上記地下道の浸水状況が悪化していると感じ、自己判断で職場へ向かった。向かっている途中で、病院管理部から参集の連絡が入ったが、病院周辺は浸水しており、この参集の連絡で病院に到着できた者は筆者のみだった。病院周辺の道路は濁流が流れ、建物の地下へは浸水していたが、放射線機器が設置されている建物には浸水が無かった (Fig.2)。

全館が停電する可能性があったため、放射線機器のシャットダウン作業を行なった。

16日の早朝にかけて行なった作業は、水没した地下の荷物を運ぶ作業、入院患者の朝食を準備する作業、また、MRIのクエンチが危惧されたため、チラーとコンプレッサーを通電し、監視を行なった。



Fig.2

【被災2日目 7月16日】

スタッフへの状況報告と安否確認の目的で、スタッフ内連絡用ツールとして整備していた「LINE WORKS」を使用し、情報を提供した。スタッフの既読情報が簡便に確認できるため、情報共有に役立った。

午後には停電が復旧し、放射線機器の動作確認も行えた。

【被災3日目 7月17日】

上記連絡用ツールを使用し、スタッフの被災状況の確認、また18日からの勤務についての報告を行なった。

【被害と災害の特徴】

放射線機器が設置されている棟は浸水の被害は無かったが、その他2つの棟が浸水した。地下1階に配置されていた給食室は甚大な被害を受け、業務不能をなり、復旧まで1ヶ月を要した。地下2階に配置されていた職員更衣室は復旧まで1年を要した。重症患者の搬送は約30名であった。

今回の豪雨災害の特徴は、過去に浸水経験が無い地域での浸水であったため、対応のための初動のタイミングが難しかったと考えられる。被害予測が困難であったため、職員の招集範囲の設定もできなかった。結果的に、必要な職員が病院に到

着できなかった。

院内の災害対策本部は機能していたため、県との連携、DMATの派遣要請、患者搬送は滞りなく行われた。

【今後の対応】

自治体の対応は、令和6年4月に秋田市を流れる大平川を対象に、「内水被害等軽減対策計画」が全国初として登録された。この対策により浸水範囲が縮小される。

病院としての対応は、今回、使用され大きな効果があった止水板の追加購入が決定した。職員参集の情報を迅速に発信するため、今後は病院ホームページに、IDとパスワード管理された“職員専用ページ”が設けられ、防災情報を発信することとなった。地下1階に配置されているサーバー室、電源設備は、費用の問題があり、移設は保留となっている。

職場としての対応は、放射線機器への浸水は無かったものの、突然の停電が危惧され、全機器のシャットダウン作業を迅速に行う必要があった。

マニュアルの整備はされていたが、迅速に行うためには定期的な訓練が必要だと感じた。また1人で勤務している状況でも全ての機器に対応する必要がある。今回、勤務当番者から職場長への報告が無かったことにより、必要な対応が滞った。連絡方法が整備されていたのにも関わらず、報告されなかったことは重大な過失であり、スタッフへの意識付けを定期的に行う必要がある。また、地下1階に設置されている画像サーバーへの対応は、クラウド化等の外部保存を検討する。

個人としての対応は、周辺地区のハザードマップを常時確認し、災害発生時のタイムラインを設けて、初動を早くすることが大切だと感じた。

【まとめ】

これまで水害が無かった地域だからといって安心せず備えておくことが大切であり、経済的な制限がある場合は、直ちに対応可能なソフト面の対策を考えることが重要である。また行政から提供されている各種情報を常時活用できる状態にしておくことも大切である。